

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2020年4月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第613号

この号が発行される頃、安倍独裁政治によるコロナウイルス戒厳令下の東京は「首都封鎖」になっているのだろうか？

「政府が明確な指針を」というが、大混乱の原因は大本営発表が信頼されていないこと。専門家の意見も聴かず、一生に一度の卒業式、二度と会えないかもしれない同級生との思い出を、オリンピックをやりたいがための己の欲を奪う政権に何を求めるのか？

政府が求める自粛等は要請に過ぎず、本来は自分で情報を分析し、自己判断すべきものである。しかし、己と異なる判断をする人への、昭和天皇の死亡時、東日本大震災直後のような同調圧力が相次いでいる。花粉症の人、通学する学生、外で遊ぶ子どもへの罵倒、演劇、コンサートへの脅迫等々。

映画「三島由紀夫VS東大全共闘」では、交わることが無いはずの者の間に討論が成立していた。この中で元東大全共闘が「人間と人間の間に、媒体として言葉が力があった時代の最後だとは思っている。」と語っている。自分の正義感に凝り固まった同調圧

力は他人を尊重せず、攻撃し排除する。大概はその件と無関係な人が、匿名性の高いSNSをとおしてヘイト、罵詈雑言を浴びせる。自分フアーストのSNSに議論は無く、怖いのはウィルスより人だ。多くのキリスト教会が礼拝やミサを中止にした。自己判断であったのか。上からの命令なのか、周囲の同調圧力

「初めに言があった。言は神であった。」

言は神と共にあった。

【ヨハネによる福音書一：一】



その場としての礼拝やミサの在り方の重要さと言うまでもない。

パンデミックの不安に替える社会において、人はむしろ言葉を求めているのではないだろうか。礼拝ミサ中止にどれだけの対話、論議、言葉のやり取りがあったであろうか。単に上からの指示を唯々

だったのか。キリスト教新聞社HP「礼拝学の視点から」に中道基夫氏と土井健司氏が論じているが、礼拝を中止すること、礼拝への出席を自粛してもらうことは全く違うということに賛同する。

キリスト教が神、イエスの御言葉をミッションするのであれば、言葉突き詰めていき、語り、広めていくこと

関東運営委員(4月より)
東矢 高明

諸々と受け入れたのか、「危険なのは、『今回はパンデミックだからしょうがない』と思考停止になつてしまうことです。」(平田オリザ、3月19日朝日新聞朝刊)状態であったのか。検証が必要だ。

最近、共感を覚えた新聞記事を引用して締めくくりとす。

3月15日東京新聞(前川喜平元文部科学事務次官「本音のコラム」)より

(前略)不寛容は恐怖から

生じる。恐怖は不安から生じる。不安は無知から生じる。科学的根拠に基づく正確な情報を、わかりやすく人々に伝えることが必要だ。科学的根拠のない独断的な対策の乱発は、不寛容を増幅させるだけである。」

3月22日朝日新聞朝刊(作家あさのあつこさんから子どもたちへ)より

(前略)大人たちの言うことを全部うのみにするのではなく、自分で考えて動いてください。(中略)大人は大きな出来事があると騒ぎ、過ぎればすぐ忘れてしまいます。でもみなさんには、一人ひとりの身に降りかかったことを覚えておいてほしい。(中略)自分の言葉で友達や家族、大人たちに話してみてください。なぜならそれが、あなたたちが大人になった時、こんな騒動や危機を起こさない力になるからです。わたしたち大人も、この騒動が一段落した後、「命を守るため」という言葉の下に子どもたちに何をさせたのか、ちゃんと検証しなければいけないと思います。」

(カトリック高円寺教会会員 地方公務員)

フォーラム事業		
関東フォーラム 今日の課題 I	第1回	「子どもの貧困と教会の役割 子ども食堂の取り組みから」 日時未定
	第2回	「フェイク・ニュースと情報リテラシー」 講師 未定 日時未定
	第3回	「閉塞した社会と若者たちの生きづらさ」 講師 未定 日時未定
関東フォーラム 宗教対話 I	全6回	「教会と音楽 讃美歌を中心として」 講師 小海 基 (日本基督教団荻窪教会牧師) 第1回 5月7日(木) 第2回 6月11日(木) 第3回 7月9日(木) 第4回 9月10日(木) 第5回 10月8日(木) 第6回 11月12日(木)
関東フォーラム 宗教対話 II		柏木義円公開講演会「国家と教育 柏木 義円の問い」 講師 坂井誠 (柏木義円研究会との共催) 11月14日(土)
関東フォーラム 宗教対話 III	全6回	「悪と苦難の問題を考える」 講師 本多 峰子 (二松学舎大学教授) 第1回 6月18日(木) 第2回 7月16日(木) 第3回 9月17日(木) 第4回 10月15日(木) 第5回 11月19日(木) 第6回 1月21日(木)
関東フォーラム 宗教対話 IV	全5回	「教会とLGBT」 講師 中村 吉基 (「宗教とLGBT ネット ワーク」代表) 第1回 1月14日(木) 第2回 2月18日(木) 第3回 3月11日(木) 第4回 4月8日(木) 第5回 5月13日(木)

研修・セミナー・体験交流事業

聖書を読む講座 I	全6回	「この時代の中で聖書からのメッセージ を読み解く」 講師 上林 順一郎 第1回 5月27日(水) 第2回 6月24日(水) 第3回 7月22日(水) 第4回 9月23日(水) 第5回 10月28日(水) 第6回 11月25日(水)
聖書を読む講座 II	全10回	新しい聖書の学び「マルコ福音書をじっ くり読む」III 講師 山口里子 (日本フェミニスト神学・ 宣教センター共同ディレクター) 第1回 5月19日(火) 第2回 6月16日(火) 第3回 7月21日(火) 第4回 9月15日(火) 第5回 10月20日(火) 第6回 11月17日(火) 第7回 12月15日(火) 第8回 1月19日(火) 第9回 2月16日(火) 第10回 3月16日(火)
話し方ワーク ショップ	全10回	「礼拝の言葉を豊かに」話し方ワーク ショップ (ステップ・アップ講座、初心 者も可) 講師 友野 富美子 (日本基督教団経堂緑 岡教会副牧師、元声優) 第1回 5月12日(火) 第2回 6月9日(火) 第3回 7月14日(火) 第4回 9月15日(火) 第5回 10月13日(火) 第6回 11月10日(火) 第7回 12月15日(火) 第8回 1月12日(火) 第9回 2月9日(火) 第10回 3月9日(火)
神学生交流プロ グラム		第1 2回神学生交流プログラム 校長 神田健次 (関西学院大学名誉教授)、講 師 未定 2021年3月16日 (火)～18日(木)
神学生交流プロ グラム リユニオン		第1回～第10回の参加者に呼びかけて 関西セミナーハウスを会場に実施予定 2021年3月15 (月)～16日(火)

III 関西セミナーハウス活動センター2020年度事業計画

複雑に錯綜する現代社会の問題と取り組むには、宗
教的信仰だけでは足りない。一方において、事柄の専
門家と共に学際的な理解を深め、自らの判断力を形成
する必要がある。他方、究極的な土台と価値判断基準
を確立するために、宗教や倫理を深く学ぶことも欠か
せない。この両面から、現代日本において自立した市民
を育て支援するために啓発的教養フォーラムとセミ

ナーを提供する。同時に、地域と社会に開かれた事業
として、エキシメンカルな対話の場と機会とする。

1. 修学院フォーラム「社会」においては、歴史的側
面から「日本キリスト教思想史」(戒能信生氏)か
ら学び、「エネルギー問題」(第9回)を通して日本
の将来の指針を 探り、「キリスト教と政治的
課題」(佐藤優氏)から、現代日本の政治社会問題
の解決に向けて取り組む。
2. 修学院フォーラム「福祉」においては、「浦河べ
てるの家」で有名な向谷地生良氏を招き、「宣教と
当事者研究」について学ぶ。
3. 修学院フォーラム「いのち」においては、賛成論
と慎重論が拮抗する「こうのとりのゆりかご」につ
いて人見滋樹氏を招き、その理想と現実から学び共
に考える。また超高齢社会となった日本で、「若い
の目をいかに生き、支えるか」を今年度も探ってい
く。
4. 開発教育セミナーにおいては、人権・平和・環境
などの地球的課題を参加型学習で学び、私たちの社
会のありようを考える。
5. これらに加え、「お茶の心と宗教の心」では、「D. ボ
ンヘッファー・セミナー」を開講し、お茶とその心
に親しみつつ、「遺稿『倫理』を新版で読む」。さら
に紅葉の美しい季節には、関西セミナーハウスの景
観を背景に、お茶とお箏、美術、音楽を楽しむ「も
みじまつり」を催す。

フォーラム事業		
修学院フォーラム 社会	第1回	日本キリスト教思想史 (仮) 講師 戒能信生 (日本基督教団千代田教 会牧師) 6月または2月 予定
	第2回	エネルギーを考える第9回 なぜ原発を越えられないのか (仮) 講師 交渉中 2021年1月10日 (日)～11日(月、 祝)
	第3回	キリスト教と政治的課題(仮) 講師 佐藤 優(作家、元外務主任分析官) 2021年2月予定
修学院フォーラム 福祉	第1回	宣教と当事者研究 (仮) 講師 向谷地生良 (社会福祉法人浦河べ てるの家理事) 京都 YWCA 他と共催予定 8月30日(日) ～31日(月)
	第2回	子ども・女性・若者の「貧困」(仮) 講師 交渉中 京都 YWCA と共催 未定
修学院フォーラム いのち	第1回	「すべての命を大切に、こうのとりのゆり かご in 関西の理念と現状」 講師 人見滋樹 (NPO こうのとりのゆり かご in 関西理事長、日本胸部外科学会名 誉会長) 5月16日(土)
	第2回	老いの目をいかに生き、支えるか (4) 講師 交渉中 未定
研修・セミナー・体験交流事業		
開発教育セミナー	第1回	開発教育入門セミナー 共催 京都市国際交流協会 6月21日(日)
	第2回	民主主義の危機を乗り越える～多数決で 語られる「民意」と公正な社会～ 講師 坂井 豊貴 (慶應義塾大学経済学部 教授) 7月20日(土) ～21日(日)
	第3回	中東の今とこれからの日本～紛争地のリ アルから考える 講師 西谷文和 (フリージャーナリスト) 9月26日(土) ～27日(日)
	第4回	在日外国人と創る新しい共生社会～移民の視 点から学びなおす～ 講師 アンジェロ・イン (武蔵大学社会学部 教授) 10月24日(土) ～25日(日)
	第5回	これからの食と農のあり方を考える～タ ネ・食卓・地域～ 講師 松平 尚也 (農家ジャーナリスト・ AMネット) 11月28日(土) ～29日(日)

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー

2020年度事業計画

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーは、2020年度の実業計画に関する基本方針を次の通り定める。

I 事業計画基本方針

当財団は、2020年度において、以下の基本方針を掲げ、事業を推進する。

1. 財団事業の展開

定款に定められた当財団の目的に添って、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた対話（はなしあい）を通し、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を活発に展開する。

2. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 東・西活動センター

① 現行のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。

② 参加者同士の対話中心の宿泊プログラムを拡充する。

③ アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組む。

④ 得られた成果を機関紙による広報を超え、広く社会に発信する。基幹プログラムの成果は出版物として発行などし、知の蓄積を行う。

⑤ キリスト教精神に基づくものではあるが、未だに社会の共通認識を形成していない幅広い課題をプログラム化し、もってキリスト教系メディア、一般メディアの関心を高め、啓発活動を活性化させる。

(2) 関西セミナーハウス

① 当財団の事業展開の拠点として、公益目的事業でのさらなる活用をはかる。また、当財団の目的達成に資する諸団体が行う公益目的事業を支援するため、宿泊研修施設を諸団体、教育機関・学会・研究会活動等の使用に供する。

② 効率的な運営をはかり、公益活動への貢献度を高める。

(3) 広報活動

フォーラム事業、研修・セミナー・体験交流事業等の内容並びに各年度事業計画・予算及び事業報告・決算を機関紙「はなしあい」において定期的に報告する。同時に、東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページ等によって積極的な情報発信を継続する。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

公益目的使用外の一般利用者、企業等への宿泊研修施設の貸出しを行い、その収益は原則として、公益活動への貢献、施設の補修、維持、向上等に資する。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を公益活動に資する。

3. 運営推進体制の安定化

公益目的事業の運営推進に当たっては、まずそれを可能とする財政の健全化を進める。継続的な事業に関しては明確な方向性と予算計画を持ち、プログラム毎の収支の整合化を原則とする。新規プログラムについても、必要財源を確保し、活動の安定的展開を目指す。

4. 賛助会員、寄附金の拡充

公益目的事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念の理解、浸透につとめ、アカデミー運動を支えようとする賛助会員及び寄附金の拡充を図る。

II 関東活動センター2020年度事業計画

2020年度の関東活動センターは、日本クリスチャン・アカデミーの理念に基づき、以下のような諸プログラムを計画している。

1. 昨年度計画しながら諸般の事情で実施できなかった「今日的課題」Ⅰとして、子どもの貧困をめぐる現実、いじめ、不登校、引き籠もりに追いやられている若者たちの現状、情報過多の時代の諸ツールやフェイク・ニュースの問題、さらに現在の安倍政権の憲法改正に向けての動向などの諸課題を取り上げる。その際、マイノリティーセンター、YMCA 同盟、早稲田奉仕園、東京戦争を許さないキリスト者の会などとの共催プログラムの可能性を探る。

2. 「宗教対話」Ⅰとして、連続講座「教会と音楽～讃美歌を中心として」を10回シリーズで実施する。この企画は、3年間継続してきた連続講座「日本キリスト教史を読む」の受講者を主な対象とし、さらに教会音楽や讃美歌に関心を持つ人々の要望に応じて企画された。

3. 「宗教対話」Ⅱは、これまでに引き続き柏木義円研究会との共催で、柏木義円の現代的意義を問う公開講演会を実施する。

4. 「宗教対話」Ⅲは、「悪と苦難の問題」を、初代教父時代の考察から始まり、近現代の組織神学における知見を分かりやすく学ぶ新しい企画である。かなり難しい課題なので、最初受講生は少ないことが予想されるが、育てていきたいプログラムである。

5. 「宗教対話」Ⅳは、セクシャル・マイノリティーの問題を教会の課題として取り上げる新規プログラムである。LGBTの当事者だけでなく、教会や信徒の理解を得るために企画された。

6. 聖書を読む講座は、この間継続してきた山口里子氏による「新しい聖書の学び」の連続講座に加えて、上林順一郎牧師による「この時代の中で聖書からのメッセージを読み解く」を引き続き実施する。

7. 体験プログラムとして、昨年に引き続き「礼拝の言葉を豊かに」というテーマで、話し方ワークショップを月に一度のペースで開催する。礼拝の司式や聖書朗読、詩編交読、説教などの発声・発語の訓練を行う。

8. 各神学校の枠を超えた神学生たちの交流を目的とした「神学生交流プログラム」については、2020年度も各神学校の賛助を得て、第12回プログラムを実施する。また第1回から第10回までの講師の講演を編集し、新教出版社から報告書の出版を準備中である(6月頃発行予定)。なお、この神学生交流プログラムの第1回から校長として協力して頂いた関田寛雄先生を囲む元参加者によるリユニオンも計画している。第10回までの参加者約150名(その多くは現在各地の教会に仕える牧師・伝道者として働いている)に呼びかけて、関西セミナーハウスを会場に第12回プログラムの前日から一泊二日で実施する予定である。なお、11回以降は、校長が交代し新たに神田健次氏(関西学院大学名誉教授)をお願いしている。

開発教育セミナー	第6回	再エネ100%は可能だ!～適正技術と持続可能な開発 講師 牛山 泉 (足利大学理事長、大学院特任教授)	12月12日(土) ～13日(日)
お茶のこころと宗教のこころ	全11回	ボンヘッファー・セミナー 『遺稿『倫理』を新版で読む』 講師 山崎 和明 (四国学院大学名誉教授)	第1回 5月20日(火) 第2回 6月24日(火) 第3回 7月22日(火) 第4回 8月26日(火) 第5回 9月23日(火) 第6回 10月21日(火) 第7回 11月25日(火) 第8回 12月23日(火) 第9回 1月27日(火) 第10回 2月24日(火) 第11回 3月24日(火)
もみじまつり		茶席、邦楽、美術展示、音楽演奏 関西セミナーハウスと共催	11月23日(月、祝)

- 支均衡を目指す。
- 4) 2020年度の設備投資は、長期的な設備投資計画に基づき、関西セミナーハウスの減価償却費の範囲内で優先順位を定め実行する。
 - 5) 2018年2月に理事会が承認した当財団の「財政健全化計画」に対処する。
 - 6) 利用者増を図るため、具体的な販売促進策を展開する。
 - 7) リピーター利用者の丁寧なフォローに取り組み、利用率の向上を図る。
2. 予算編成作業実施にあたっての留意点
- 1) 会計単位別の収支予算書に加え、関西セミナーハウスについては損益計算書を作成する。
 - 2) 人的費用は、職員だけではなく、顧問、嘱託、パートタイマー及び臨時の雇用員までの全ての費用を把握し、予算に計上する。
 - 3) 関西セミナーハウスは、公益目的事業、収益事業別の施設利用計画を作成する。
3. 主な数値目標
- 1) 収入計画 (P&L ベース)
売上高 109,085,000円(前年度予測比103%)
営業利益 0円
 - 2) 設備投資計 12,460,000円
 - 3) 年間宿泊者目標 8,100名(前年度予測比102%)
 - 4) 年度期首要員 17名

(以上)

※なお、東西活動センターの各プログラムは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催の中止・延期など予定変更の可能性があります。ご了承ください。

IV 関西セミナーハウス2020年度事業計画

2020年度の関西セミナーハウス事業計画は、以下の通りである。

1. 運営方針

- 1) 関西セミナーハウスは、当財団の基本方針に従い、公益事業への貢献に資するため、より一層事業での成果を求める運営を図る。
- 2) 組織的運営体制の整備、システム化、業務効率化、専門的業務の支援体制の充実、職員スタッフの育成などを推進する。
- 3) 関西セミナーハウスは、減価償却費を含めた収

収支予算書 (損益計算方式)

(2020年4月1日～2021年3月31日まで)

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	[1,200]	[1,200]	[0]	
特定資産運用益	[520]	[25,520]	[△ 25,000]	
受取会費	[1,040,000]	[1,250,000]	[△ 210,000]	
事業収益	[134,837,525]	[139,839,708]	[△ 5,002,183]	
受取寄付金	[3,820,000]	[3,400,000]	[420,000]	
雑収益	[120,330]	[90,530]	[29,800]	
経常収益計	139,819,575	144,606,958	△ 4,787,383	
(2) 経常費用				
事業費	[133,016,257]	[136,496,942]	[△ 3,480,685]	
管理費	[3,644,808]	[5,079,918]	[△ 1,435,110]	
経常費用計	136,661,065	141,576,860	△ 4,915,795	
当期経常増減額	3,158,510	3,030,098	128,412	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	3,158,510	3,030,098	128,412	

関西セミナーハウス活動センター

●2019年度 修学院フォーラム「社会」第4回
「エネルギーを考える」第8回

「核に依存しない世界へ向けて」

発題「ソーラーシェアリングと有機農業へのフクシマからの挑戦」

合同会社「環境エネルギー政策研究所」代表社員、環境エネルギー政策研究所事務局長 近藤 恵さん
「再生可能エネルギー100%の国を目指して」
足利大学理事長、大学院特任教授 牛山 泉さん

2020年1月12日(日)〜13日(月、祝)



フクシマ原発事故から9年が経過しようとしている。我々はこの災禍から何を学び、何を生かそうとしているのか。それを考えたいと思う上智大学教授木村護郎クリストフと京都大学名誉教授小久保正がこの会を企画した。日本各地から30余名の方が集まり、東京から5名の学生が参加して下さった。

最初に、福島で有機農業で



的に転用することは許されなかった。そこで、農地で農作物を作り、その隙間の上の空間に太陽光パネルを並べた。その結果、適当な日陰の下で作物が順調に育っただけでなく、上に置いたパネルで電気を作り、売ることも出来た。なお様々な困難があるが、自立的社会を作ろうと苦闘している、と述べられた。

次いで、風力発電を専門としている牛山 泉さんに、原発を止めて、CO2ガスを排出する化石燃料も使わなくても、再生可能エネルギーだけで日本のエネルギー需要を賄うことが出来るのかどうかを語って頂いた。牛山さんは、日本の太陽光、風力、水力、バイオマス、地熱などの再生可能エネルギーのポテンシャルは、原子力発電2100基分もあり、これは日本のエネルギー需要の10倍以上にも相当する、再生可能エネルギー100%の社会を実現できるかどうかは、それをやる気を起こすかどうかにかかっている、と述べられた。二人とも希望ある展望を語って下さった。

しかしいささか心にひっか



かもしばらくして、多くの犠牲者を出して初めてその問題点に気づかされた。同じ過ちを繰り返さないためには、なぜ原発を無条件で歓迎したのか、何が問題だったのか、なぜ今なお原発を脱却できないのかをしつかり検証しておく必要がある。

そのきつかけになればと思

い、若狭の老朽原発の再稼働を旨とする動きと、使用済み核燃料を再処理する技術の行き詰まりを、それぞれ木原壮林さんと山本茂さんに語ってもらったが、全体の議論に繋げることができなかった。

<お知らせ>

「2019年度 賛助会費・寄付金納入者ご芳名」は、次号掲載いたします。



プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**2020 年度聖書を読む講座 I**

「上林順一郎牧師と一緒に聖書を読む
一この時代の中で、聖書からのメッ
セージを読み解く」

第 2 期「創世記 原初史 から読み解く
現代～神、自然、人間をキーワードに」

講師：上林 順一郎さん

日 時：①5月27日、②6月24日
水曜 14:00～16:00(全6回)

会 場：早稲田奉仕園セミナーハウ
ス 101 号室

参加費：1,000 円/学生 500 円

共 催：早稲田奉仕園

■**2020 年度 研究会**

「さらに豊かな礼拝のために～こと
ばを届けるトレーニング」(全10回)

講師：友野 富美子さん (日本キ
リスト教団吉祥寺教会担任
教師)

日 時：①5月19日、②6月16日
火曜 18:00～20:00

会 場：日本基督教団巣鴨ときわ教会
参加費：1 回 1,200 円

■**2020 年度関東フォーラム宗教対話 III**

「悪と苦難の問題を考える」第 1 回

「一神教においてなぜ悪や苦難が問
題なのか ～ライブニッツ以降の神
義論、神義論の代表的な類型の紹介」

講師：本多 峰子さん (二松学舎
大学教授)

日 時：6月18日(木)13:00～14:30

会 場：日本基督教会館 1F NCA
参加費：1,000 円、学生 500 円

◆**関西セミナーハウス**

■**月釜「清心会」**

日 時：5 月、6 月休会

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2020 年度修学院フォーラム「いのち」**
第 1 回「すべての命を大切に NPO
法人こうのとりのゆりかご in 関西
の理念と現状」

講師：人見 滋樹さん (NPO 法人
こうのとりのゆりかご in
関西 理事長、京都大学名
誉教授、日本胸部外科学会
名誉会長)

日 時：5月16日(土)13:30～17:30

会 場：関西セミナーハウス
参加費：2,300 円 学生 1,000 円
(コーヒー付)

■**2020 年度お茶のこころと宗教のこころ**

「D.ボンヘッファー (1906～1945)
の 遺稿『倫理』を新版で読む」

講 師：山崎 和明さん (四国学院
大学名誉教授)

日 時：2020 年 5 月～2021 年 3 月
(全 11 回)

①～⑩水曜 18:30～20:30
⑪1泊2日予定

①5月20日、②6月24日

会 場：関西セミナーハウス

参加費：1,500 円(抹茶と和菓子付)
①～⑩回数券 13,500 円、
⑪は別途

■**2020 年度開発教育セミナー**

第 1 回「開発教育入門セミナー
～SDGs (持続可能な開発目標)を
じぶんごとに～」

日 時：2020 年 6 月 21 日(日)
10:00～16:00

会 場：京都市国際交流会館

参加費：1,000 円

共 催：京都市国際交流協会

◎各プログラムは、新型コロナウ
イルス感染拡大の状況により、開
催の中止・延期など予定変更の可
能性があります。その場合は、左
記の各センターウェブサイトなど
でお知らせいたします。

東 西 南 北

◎**関西セミナーハウス**

大森絵美、客室 (嘱託)、4 月 1
日付で着任しました。

財団本部

<http://www.academy-nippon.com>

関東活動センター

<http://www.academy-tokyo.com>

関西セミナーハウス

<http://www.kansai-seminarhouse.com/>

関西セミナーハウス活動センター

<http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 中村 信博

本部事務局

〒 606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館 1F
TEL 03-3207-6198

E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター
〒 606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115

E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117

E-mail:office@academy-kansai.org

関西セミナーハウス <修学院きらら山荘>

**デイユース★テレワーク応援プラン
実施中！**

緑豊かな静かな環境で、集中力アップ。
平日 9 時～ 17 時、3,000 円(税込)より。
Wi-Fi、有線インターネットの接続可能。
(PC はご持参ください) 駐車場無料



◇この春、本館客室はカードキー式に、南棟 2 階出入口には
自動ドアを設置しました。

お問合せ：TEL 075-711-2115 (代)

賛助会費・寄付金報告

2020 年 3 月 1 日～3 月 31 日

(順不同・敬称略)

◆**財団本部**

寄付金

奥田 豊 100,000

◆**関東活動センター**

賛助会費

全国教会婦人会連合 20,000

石橋 光朗 3,000

寄付金 (クリスマス寄付金を含む)

在日本韓国 Y M C A 10,000

神学生プログラム寄付金

横野 朝彦 10,000

関田 寛雄 5,000

外谷 悦夫 5,000

◆**関西セミナーハウス活動センター**

賛助会費

糸原 良禎・由美子 10,000

小山 稔 3,000

寄付金 (クリスマス寄付金を含む)

桃山アシュラム 7,000

山崎 和明 37,960

日本基督教団京都教会 5,000

村上 みか 1,840

以上、感謝をもってご報告申し上げます。